

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成28年8月分）

【景況感】

景気回復に足踏み感が見られる。

【製造業】生産、受注は持ち直しを見せはじめている

○製造業全体では、輸送用機械（主に自動車産業）について、工場の爆発事故や熊本地震による挽回生産が継続しており、生産は前年同月水準まで戻しつつある。鉱工業生産指数は、一部業種で生産の弱含みが見られるものの、全体としては持ち直しを見せはじめている。

【地場産業】依然として厳しい状況が続いている

○地場産業は、直近の円高による原材料費の低減は追い風であるものの、依然として消費マインドの減退や海外製品との競合など厳しい状況が続いている。

【個人消費】消費の回復状況は鈍く、弱含んでいる

○個人消費は、売上の前年比増減率が年初より鈍化が続き、弱含んでいたが、下げ止まりをみせている。但し、実質賃金の増加が期待できないことから節約志向が続き、長期的にみると消費回復への足取りは重い。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに増加している

○観光は、前年同月に比べ、休日日数が多かったことや天候に恵まれたことにより、観光客数・宿泊客数ともに増加となった。

【雇用】雇用情勢は回復基調にある

○雇用面では、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、全国と比べても良好な数値であり、総じて県内の雇用情勢は回復基調にある。一方、一部の業種では人手不足に陥っており、求職と求人のマッチングが今後の課題である。

【設備投資】投資実績は上向くも、投資意欲は減少している

○設備投資の実施は、年初から上昇しているが、設備投資意欲は、昨年年央から減少が続いている。設備投資の目的は、依然として工場・機械等の「補修・更新」がメインとなるが、「生産能力拡大・売上増」も僅かながら増加傾向にある。

【資金繰り】資金繰りは改善傾向にある

○企業の資金繰りは、改善傾向にある。新規融資実績は落ち着きを見せており、借入難易度も緩やかながら着実に改善している。